

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0970400750		
法人名	社会福祉法人報徳会		
事業所名	グループホームあゆ		
所在地	栃木県佐野市仙波町504-6 (電話) 0283-84-1588		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年11月12日	評価確定日	平成21年12月17日

【情報提供票より】(平成21年10月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤7人(うち兼務1人), 非常勤2人, 常勤換算7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,620円	その他の経費(月額)	・光熱水費—17,700円 ・共益費・日用品費—6,500円 ・理美容代、おむつ代—実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(30,000円)	有りの場合償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(平成21年10月13日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1		1名	要介護2		1名
要介護3		5名	要介護4		2名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 88.2歳	最低	82歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長島医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人報徳会は古くから特別養護老人ホームを開設し、デイサービスや居宅介護支援事業についても地域に根ざした展開をしている法人である。認知症があり自宅での生活が困難な方への第2の故郷として、「自分らしくゆっくりと、ゆとりのある暮らし」を理念として平成17年8月に「あゆ」を開設した。ホーム裏手には森がある自然豊かな環境に立地しており、木造の清潔感あふれるホームである。職員が法人の栄養士の助言を得て、自らが入居者の要望を聞いて作成したメニューの中に、入居者各人の好みに合った「食」を支援している。個人記録等個人情報にかかわるファイルの氏名が見えないように職員手作りの小さなカーテンをさりげなく使うなど、入居者のプライバシーにも配慮している。また、家族会が結成されており、入居者や家族との意志疎通が更に図られている。地域住民との避難訓練の実施やインフルエンザ予防の推進、地域の清掃活動等への参加など、「一軒の家」として地域にとけこんでいるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価については日々の振り返りの機会と捉え、改善点等については出来ることから少しずつ取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	内部評価の為のファイルを作り、職員に記入して貰い、それを基にして評価の意義を話し合い作成している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は、入居者家族、地域住民代表、市職員等により構成されており、3ヶ月1回開催されている。会議では、ホームの状況や行事等の報告の他、防災面や感染症対策等についての協議も行っており、地域と協力できることを話し合ったりしている。参加者からは積極的な提案や多くの入居者家族も参加している事から、貴重なアドバイスを頂くことができ、ホームのサービスの向上に役立っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	重要事項説明書にホームの苦情解決体制が明記されている他、外部の苦情受付機関も掲載されており、苦情等を出しやすい環境を整えている。また、アンケート用紙を玄関入口に置いて自由に要望等を記入出来るようにしている他、家族からは手紙でも要望が出されている。最近では、食事のメニュー作成や食事準備の手伝いの要望があったので対応している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	一軒の家として町内会に加入している。福祉レクリエーション大会、河川道路清掃、子ども会や花火大会等の町内行事、また運動会や招待集会等の小学校での行事に積極的に参加し交流を深めている。また、小学生が訪問してくれて魚釣り等も実施している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初に全職員で話し合い、事業所独自の理念「自分らしくゆっくりと、ゆとりのある暮らし」を作り上げており、玄関の掲示板や案内のパンフレットにて掲載し、理念の周知をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の職員間の話し合いや月1回のカンファレンスでは、「理念に向けての取り組み」のための場として、理念の共有を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	一軒の家として町内会に加入している。福祉レクリエーション大会、河川道路清掃、こども会や花火大会等の町内行事、また運動会や招待集会等の小学校での行事に積極的に参加し交流を深めている。また、小学生が訪問してくれて魚釣り等も実施している。	○	一軒の家として、年3回の地域の清掃活動に職員が参加し近隣の人たちと交流を深めてきているが、今後は入居者にも短時間の参加を促すなど更に地域との継続的・計画的な交流の取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	内部評価の為のファイルを作り、職員に記入して貰い、それを基にして評価の意義を話し合い作成している。外部評価については日々の振り返りの機会と捉え、改善点等については出来ることから少しずつ取り組んでいる。		

グループホームあゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者家族、地域住民代表、市職員等により構成されており、3ヶ月1回開催されている。会議では、ホームの状況や行事等の報告の他、防災面や感染症対策等についての協議も行っており、地域と協力できることを話し合ったりしている。参加者からは積極的な提案や多くの入居者家族も参加している事から、貴重なアドバイスを得ることができ、ホームのサービスの向上に役立っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員とは、ホームの運営に関して分からない事や介護保険等に対して、随時、相談を行い助言をもらっている。	○	ホームには、住民から認知症の問い合わせや相談があり、助言や情報提供を行っている事から、今後も市担当職員とも密接な協力関係を維持し、介護情報の共有やネットワークの構築等に努め、更に地域への情報発信の場となることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への入居者の生活状況や健康状態等の報告については、家族の面会時にその都度報告している。家族の面会は平均して月3回程度あり、家族が気軽に立ち寄りやすい雰囲気づくりに努めている。また、ホームでの行事や日々の生活状況等を報告できるようカラー写真を数多く掲載した広報誌「あゆだより」を作成し家族に配布している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情解決体制が明記されている他、外部の苦情受付機関も掲載されており、苦情等を出しやすい環境を整えている。また、アンケート用紙を玄関入口に置いて自由に要望等を記入出来るようにしている他、家族からは手紙でも要望が出されている。最近では、食事のメニュー作成や食事準備の手伝いの要望があったので対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職がある場合は、入居者に不安を与えないように、後任者は前任者と一緒に事業所内のケアの動きなどを同じように2か月間行い、入居者と早く馴染んでもらうよう努めている。また、職員間でも協力し合う事で、入居者のダメージを最小限に防ぐ配慮をしている。		

グループホームあゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の法人全体の検討会議には、管理者が出席している。管理者は、外部研修にも参加しており、研修受講後には、報告書を作成し、全職員に閲覧を行っている。職員が外部研修に参加する機会は少ないが、最近では救急救命の講習会に参加している。	○	管理者は自分が受講した研修内容については、職員へ伝える伝達講習に努めているが、今後は、職員の経験年数や職位に応じた研修体系を構築し、段階的にすべての職員が外部研修等を受講できる機会を設け、更に職員の育成に努めることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの相互訪問や電話等で連絡を取り合うなど、情報交換を行っており、参考となる点についてはホームでのサービスの質の向上に役立っている。	○	今後は、市内のグループホーム職員との話し合いや食事会等の交流の機会を持ちたいとの希望もあることから、市内のグループホーム間でのネットワークづくりを呼びかける等、今後のサービスの向上に繋げることを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始にあたっては、本人や家族に何度かグループホームに来所してもらい、入居者達とお茶の時間を過ごしてもらい、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう配慮している。また、入居予定者の自宅を管理者が事前に訪問して、本人や家族にホームについての説明も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ジャガイモの植え方や草餅などの季節の食べ物の作り方、畑仕事や食事作り等と一緒にやる中で職員が入居者から教えられる事も多い。職員一人ひとりが入居者の今までの生活歴等を尊重し、個性や能力を大切にすることを努めている。		

グループホームあゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者は、朝その日の行動についての希望を言う場合が多いが、出来る限り希望に添えるように努めている。意向の表出が困難な場合には、家族からの要望（例えば、毎日散歩させて欲しいなど）を参考に対応している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成にあっては、家族の来所時等を利用して本人・家族とも相談を行い、意見や要望を踏まえて作成している。作成した介護計画は、本人・家族に説明を行い、同意を得ている。主治医と話した内容や職員が気づいた内容も情報として介護計画に反映している。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは3か月を目安に行っている。職員間で課題を出し合い、検討をしている。その結果を踏まえて適宜見直しを行い、見直しにあたっては家族からの同意を得ている。また、書面で書き直すまでもない小さな変更箇所については、家族に報告しながら適宜変更している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>外出、外泊時の迎えの時間の変更や食事内容の変更にも柔軟に対応している。異動となった職員が頻繁に来所しており、馴染みの関係を継続している。</p>		

グループホームあゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者家族の了解のもとに、かかりつけ医を協力医療機関に変更してもらっている。毎月1回の往診の際には、担当職員他に同法人の看護師に同席してもらっている他、協力医は24時間対応であり、入院が必要な場合等は医療機関を紹介してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、家族や主治医と話し合いを行っている。本人にも重い問だが「どうしたいか」を聞き取りしている。また、家族には重度化した場合の対応の一つとして特別養護老人ホーム等への入居も考えて欲しいと伝えている。	○	利用者が重度化した場合や看取りとなった場合、家族からの希望としては、ホームにて対応して欲しいとの要望が多いことから、入居者、家族、主治医、管理者等との話し合いを十分に行い、事業所としての対応や方針を明確にするとともに職員間においても方針の共有を図ることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーを尊重しており、居室に入る時にはノックをしたり、名前を呼ぶ際には「さん」呼びを徹底している。個人記録ファイルの書庫には名前が見えないようにカーテンを付けるなど配慮をしている。複数の入居者の記録を付ける場合等は、個人名ではなく居室の名前で記入するようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が事業所のスケジュールにとらわれることなく、職員は入居者と向き合い思いや希望を話し合い、入居者のペースを大切に支援している。		

グループホームあゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に何を食べたいかを聞きながら職員が交替で献立を立てている。入居者と職員は皮むき、刻み、つるとり等のごしらえを一緒に行っている他、サンドイッチ、おむすび、稲荷などを一緒に調理している。片づけにおいても入居者全員が食器洗いを日替わりで行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回の入浴を行っている。午前中の中の入浴を好む方には午前中の中の入浴を行っている。3種類の入浴剤から好みの入浴剤を選んでもらい、入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみごとや気晴らしの支援として通学路での散歩、草取りや畑仕事の戸外活動や貼り絵や縫い物、カラオケも行っている。また、図書館に行き好みの本を借りてきて読んだりもしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は入居者にできるだけ外出してもらえよう、タイミングを考えて声かけを行っている。1か月に2回程度は入居者全員で外出するようにしている。また、毎日散歩するように心掛けている。本人の希望により、ドライブや近隣のスーパー等での買い物に出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則として玄関の鍵は掛けていないが、入居者の不穏時にはやむを得ず鍵を掛けることがある。無断で外に出た場合でも地域住民が協力的であり、入居者をホームまで連れてきてくれている。地域の協力もあり、職員全員が鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。		

グループホームあゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域住民は、ホームには高齢者9名が暮らしており、少数の職員で見ている施設だということを知っており、年2回の避難訓練には、地域から多くの方々の協力を得ている。また、今後は夜間時を想定した訓練も考えており、夕方の実施についても検討をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士の指導を得て栄養バランスを考慮した献立を作成している。体重測定は毎月25日に実施しており、食事摂取量や水分摂取量を記録している。また、朝夕食時には味噌汁とお茶を出している。さらに、入居者の要望に応じてパンやお粥、店屋物にも対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員のシフトにより清掃場所が決まっており、毎日清掃を行っている。入居者にもモップがけを手伝ってもらっている。散歩に行った時に摘んできた花を飾ったり、七夕、クリスマス、正月、ひな祭りなど季節行事にあわせて飾り付けを行う等、季節感を取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には畳が敷かれてあり、面会時等に利用されている。入居者は各々にぬいぐるみやカレンダー等を自分の部屋に飾っている。ベット、タンス、カーテンは備え付けのものを使用している。	○	今後は、入居者が自宅で長年使ってきた家具類を持ち込んだり、カーテンを入居者の好みものに取り替える等、自分の部屋と思えるように入居者、家族、職員間で話し合い、更に本人が居心地よく過ごせるような取り組みに期待したい。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。